（別紙２－４）

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　　総括表

法人名	医療法人社団　松涛会	代表者	斎藤　正樹
事業所名	小規模多機能 ケアタウン江の浦	管理者	中尾　効史

法人・事業所の特徴	家庭的な環境を作り安心、安全な日常生活を送れるよう支援している。行事、外出支援も充実している。敷地内には内科があり、往診や緊急時の受診で適切な医療が受けられ安心した生活を送る事が出来る。本人家族の希望があれば、最後まで施設での看取りも行う。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	1人	1人	人	4人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	前年同様、情報収集し、地域のイベントに参加する。地域に溶け込めるように積極的に出向きアピールする。	イベントの参加は年々増えているが９つの項目に対し、目標、計画が思い通りに実現出来なかったことも多かった。一歩ずつ前進していきたい。	写真を遠方の孫たちに見せ様子を見てもらえて良かった。 玄関にプランターを置いて花やゴーヤ等を利用者と共に育てたら良いのでは。	スタッフ全員で利用者の情報共有や生きがい支援等具体的な計画を立てた。それを１つずつ実践していけるように事業者全体をレベルアップさせる。
B．事業所のしつらえ・環境	施設内外の防犯に係わる安全を確保する。 季節ごとの飾りつけや環境整備継続する。	掃除は行き届いており、不快とは思わない。写真を見ても季節ごとの飾りつけをしており、生け花もよく飾っている	事業所のスペースは狭いがその分利用者同士やスタッフとの距離感も近い為、触れ合う機会も多くなることで刺激になり喜ばれるのではないか。	家族の来所や見学に来られた方に対し、元気にあいさつ、笑顔で接する事を継続し今以上に入りやすく声を掛けやすい開かれた事業所を目指す。
C．事業所と地域のかかわり	カフェや体操教室を開催し、事業所から地域への発信を行い、親しみやすい馴染みの関係を構築できるよう努力する。	カフェや体操教室は実現出来ていない。徐々にして行けばよい。	高齢者の出入りする接骨院等にチラシを置かせてもらい知ってもらえる機会をふやしたらどうか。	夏祭り等の行事に地域の方を招待、参加して頂き馴染みの関係をより一層深める。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	計画を立て、利用者と共にイベント、行事に参加できる体制を作る。子ども見守り隊や公園の清掃も定期的に行う。	外へ出向くイベントは良く行けていると思う。歩行の出来る方ばかりという事だが、仕方ないと思う。公園の掃除は気候の良い時だけで良い。	散歩や公園掃除、幼稚園の運動会、コンサート等に利用者が参加しているのが写真を見て解る。皆さんいい笑顔で楽しそうである。	小学校や幼稚園の帰りの時間を把握して見守り隊を定期的に行なっていく。地域のイベントや行事に職員、利用者共に１つでも多く参加する。
E．運営推進会議を活かした取組み	それぞれが情報交換を行い、利用者や地域の方が安心して暮らし楽しみ生きがいが持てる様に協働し取り組んでいく。	まちカフェや紹介した展示会に参加してもらいうれしく思う。	独居の方もこの町内に居られるので何かあれば相談したい。	運営推進会議のメンバーで困っている地域の方に対し出来る事、必要なサービスを検討し協働して取り組んでいく。
F．事業所の防災・災害対策	運営推進会議のメンバー以外の近隣の方々にも避難訓練に参加してもらい共に防災、災害対策に取り組む。	事業所の避難訓練は運営推進会議メンバーのみしか参加しなかったが地区の防災訓練に町内の方と共に事業所が参加できた。	いざという時、小学校に避難するよりもケアタウンの２階に避難させてもらった方が安全と思う。	事業所の防災訓練に地域の方に参加してもらい、消火器の使用法や簡易担架の作り方等実技も行なって行く。